

第二十一組 「推進員 報恩講」 講話録

二〇一九年十二月六日 難波別院堺支院にて

いのちは

だれのものですか

お話

ジエシーこと法名釈しやく尼に萌海ほうかいさん

四国教区土佐組誓願寺所属

賤

三歸依文

人身受け難し、いますでに受く。仏法聞き難し、いますでに聞く。

この身今生において度せずんば、さらにいづれの生においてかこの身を度せん。大衆もろともに、至心に三宝に帰依し奉るべし。

自ら仏に帰依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、大道を体解して、無上意を發さん。

自ら法に帰依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、深く経藏に入りて、智慧海のごとくならん。

自ら僧に帰依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、大衆を統理して、一切無碍ならん。

無上甚深微妙の法は、百千万劫にも遭遇うこと難し。我いま見聞し受持することを得たり。願わくは如来の真實義を解したてまつらん。



ジェシーと呼んでください

みなさん、こんにちは。私、どこの国かご存じですか。

(会場から)「スイス」

スイスですね。スイスってどんなイメージがありますか。

(会場から)「山、マウンテン」

まあ確かに山が沢山ありますね。

(会場から)「永世中立国」

そうです。はい。他には？

(会場から)「ハイジ」

そうハイジです。私が生まれ育った村は、ハイジのストーリーが書かれたところなんです。よく日本人が観光に来られるんです。日本で作られたアニメはスイスでもテレビで流行ってました。(チラシを見せて)これは向こうで作った本当の(実写)映画なんですけどね。本当にこのような景色を毎日見ましたね。もう一枚うちの村から写真持ってきましたけど。これは四月くらいですかね。まだ山にちよつと雪が残っててタンポポが咲いてるって感じですよ。

私の本当の名前は、ジェニファー・マリリン・ウイリアムソンなんです。覚えられないでしょ。学校でも、長すぎるんでみんな覚えられないんです。それでジェシーになります。皆さんもよかつたらジェシーと呼んでください。

法名は釋尼萌海です

もう一つは法名なんですけど。これも書いちゃいますね。釈尼しゃくに、まあ尼は女性につくんですけど。萌海（ほうかい）ですね。「ほうかい（崩壊）」と聞くとモノが壊れるというイメージですか（笑）違いますよ。萌もえるっていう字は私が気に入って選びました。何か新しく始まるという感じで選んだのです。

うちの庭に百日紅さるすべりがあります。冬が終わって春になると周りの木はもうみんな葉っぱとか出てるのに百日紅だけがまだ生きてるか死んでるか分からないような気配です。後でお話しますが、そんな百日紅が私が母を失った後の状態とよく似ていました。もう、自分の心が本当に死んでしまった感じでした。

そんな死んでるように見える風景からまた新しく命が芽生えてくるというのが、萌えるとか新しく何かが始まる感じがしたのです。それで、私も得度と共に新し

い歩みが始まって、その感謝の気持ちから萌という漢字を選んだのです。

もう一つは海です。得度するには所属するお寺が必要ですが、私が所属するお寺が海の近くなんです。今の時代はなんでもインターネット。私も住職とはインターネットのFacebookで知り合いました。住職も私と同じ様に丁度お父さんを失った時で、凄く理解してもらえた感じで「よかったらうちの寺で」って言うてもらえました。それは四国の土佐清水の誓願寺、足摺岬の近くのお寺です。

四国で一番不便なところのお寺を探すんだったらそこになりますね。京都から八時間かかるんですよ。お盆に主人と一緒に車で行ったんですけど、主人から「もうちよつと近くになかったんですか」って聞かれましたよ。

確かに、私、今、京都の嵐山に住んでいますけど、本山の近くのなに何で土佐清水の不便なところのお寺でないとかあかんのかなって不思議ですね。

それから、私の尺八での名前はジェシー逅盟です。逅は邂逅の逅です。出会うっていう漢字。私の今までの人生で出会いが凄く大事でした。いろんな出会いがあつて、今日もみなさんとご縁をいただいて話させていただいています。出会いとご縁があつて、そのご縁によって新しい出会いがあつてそれがまたご縁となつて道が開けて行くというのは、本当に不思議だと思います。

スイスの安楽死

今日、話をさせていただきたいのは仏弟子となつてこの浄土真宗の教えで歩むきっかけとなつた母親の死です。

今さつき、スイスのイメージは何ですか。いろいろなみなさんから聞きましたけど、綺麗なイメージが多いですね。ハイジのアルプスとか、永世中立国とかそういう綺麗なイメージが多いです。実はこの綺麗なイメージのある国に安楽死というシステムができてます。

安楽死って何ですか。先ずそこからです。安楽死、綺麗な響ですよ。誰でも最期は悩まずに苦勞せずに逝きたいという気持ちはあると思います。

スイスの安楽死を具体的に言うと、死薬というか死ぬ薬を体に入れるんですよ。二つの方法があつて、一つはかなり苦い薬をちっちゃなコップみたいなのに入れて飲むのです。もう一つは点滴を刺して、自分では刺せないですけど、組織の看護師かそういう方が点滴を刺してそこで最期に自分がネジを緩めるのです。ネジを緩めるのは自分でしなければならぬのです。そうじゃなければ殺人になるのです。最後の最後は自分でしなければならぬのですね。

アメリカでは死刑があるので、死刑に使われているのと同じ薬なんです。その薬が体に入ったらもう二分で亡くなってしまふんですね。

点滴も飲む時と同じですけど、飲んだ後は「ああ苦いですね」とか一分くらい普通にしゃべってるんです。それで「ちよつと眠くなつたかな」という眠気におそわれて、一分経つたら心臓の動きが止まるんです。

こういう積極的安楽死は、本当は自殺ほう助とやっぱり言わなければならぬんです。自ら自分の命を絶つということですね。

形は綺麗になつてきたかもしれませんが。点滴刺して、そこでもう外から見ただけ寝ていくように見えているのですから。ゆつくりと凄く穏やかにただ目を閉じて眠るように見えるんですけど、体の中は毒がまわって心臓の動きを止めてしまふんですね。だから、体の中は穏やかな状態じゃないと思います。

一応、スイスはすごい自由な国っていうか、人権がすごく大事にされる国なんですよ。何が人権かってこうとスイスではThe right to live the right to die(生きる権利、死ぬ権利)生きるも死ぬも自分で決めるのが当然、自分でそれを決めるのは当たり前だということですね。いつ死ぬかっていうのは自分の命だから自分で決めるのも当たり前前っていう考えなんです。

スイス以外ではオランダとかベルギーとかあとアメリカのいくつかの州にも安楽死は法制化されたんです。ただ、外国人を受け入れるのはスイス以外にないですね、今のところはね。今はいろいろ変わっていくときだから、どういう風に変わっていくかは分からないですけど。

三つの組織

じゃあスイスで、安楽死を希望したらどのようなフェイズ（段階）でなるかというのと、普通の病院に行つて私は死にたいって言つてもそれは無理なんです。

スイスには Dignitas（ディグニタス）と EXIT（エグジット）と Life Circle（ライフサークル）という三つの組織があるんです。その中で Dignitas と Life Circle は外国の方の安楽死を認めてるんですね。もう一つの EXIT っていう組織は外国人を受け入れられないんです。その理由は何かというとならスイス人だけで精一杯なんです。びっくりされると思いますけど、本当に今、安楽死を求める方は列を作つて待っていられるんです。

さて、安楽死を希望する人は、この三つの名前の組織のどこかに入ります。

会ごとに毎年決まった金額を払いますが、凄く高いわけじゃないんです。

入会を申請するにあたっては条件があります。どういう条件かというのと、先ず治る見込みのない病気を持っているかどうか。治療の手段がない場合。それから耐えがたい苦痛があるかということ。耐えがたい苦痛つけてけっこう難しいですよ。どのようにこれ判断するのですかね。難しいと思います。

一番大きいのは明確な意思表示ができるかどうかです。というか判断力があるかどうかですね。違う言葉で言うのと認知症があれば断られるんです。認知症が本当に唯一受け入れられない条件になるんですね。それで、みんな認知症になる前に申請しようと思います。

母の申請

私は、治る見込みがないという条件を、癌の末期とか脳腫瘍とかそういう本当に大変な病気だと思ってました。もう本当に最後に一番辛くて、どうしても最期まで悩みたくなかったから、ちよつと違う言葉でいうと近道する方法であると思っただんです。

ところがうちの母が申請することで明らかになつたんですけど、母親は何の病気もなかったんです。七十歳でちよつと膝が痛い、腰が痛い、目が昔ほどよく見えなくなつたとかそういう歳に合った症状はもちろんあつたんですけど、本当に治らない病気に罹^かつていふことは全くなかつたんです。

だから、母親が「私はもう安楽死を申請します」って三年半前に言い出した時には「まあどうぞ、そんなの通るわけないし。あなた申請したら笑われるだけよ」と、私と家族は言つてました。

ところが母親が申請したら、二人の医者に会つて、本当に死にたいというのが自分の希望であるかどうかということが確かめられて、もう一つ、さつき言つたように認知症かどうかを確かめられました。この二つを確かめるルールなんです。それで母親は審査をクリアしました。そして私に電話してきました。ちやうど年明けだったんです。「通りましたよ」って、それを嬉しそうに言つてきました。

「何で〇×になるんですか、あなた病気も何もないでしょ。死にたいだけ。何の理由で死にたいか、ただ老いていきたくないだけなのに」と、私は答えました。そういうのが通るつて、だんだんと社会が変な方向へ行くんじゃないかなと思ふんです。それだったら誰でも手を挙げるでしょ。「私はもういい、もう生きて

くない。」つて。安楽死を申請したら認知症さえなければそれが通るつていうことなんです。もう、本当に変な話だと思います。「治る見込みのない病気があるか」というのが厳密じゃないんです。海外から申請される場合は分らないですけど、スイス国内はこうなんです。もう、明らかです。

泣くんだったら帰つてこなくていい

母親の話をもう少しします。

私、小さいときから時々、福祉施設を訪ねました。知り合いがそこに入つてその施設に入ると車椅子とか座つてる方がちよこちよこ見えるんですね。

で、母親が「私はこんなになるんだたらもういいです、だから先に私は死にます」つてよく言つたんです。何で歩けなくなつた命が、母親にとつて生きがいがないのか、あの時から私は理解できてなかつたんです。

歩けなくなつたら辛いでしょうけど、だからといって人に頼らなければならぬ人生が嫌で、そんな自分はもう絶対に受け入れられない、先に安楽死しますつていうことは、本当に理解できません。母親は、「いつ死ぬか決めるのは私の

権利です。誰の許可も必要ない」といつも言っていました。

さつき言ったように母親は安楽死という道を選ぶような重い病気に罹ったわけでもないんですよ。

私が「どうして、そんなに死にたいんですか。もうやめてよ、あなたは愛されてるんだから。なぜ、安楽死という道を選ぶのですか」と言ったら「これは私の決心です、私が自分で決めるんです。あなたが口出しする権利はない」と、何回も怒られたんです。

母親が安楽死を申請してそれが通ったっていうのは、チケットが手に入ったみたいな感じですよ。チケットというか許可証。許可証が手に入ったらすぐしなければならぬことでもないのです。まあ、いつでも、有効期限がないから「じやあ来週」と思ったら申請したらいいんですよ。

母親から「日を決めたけど、あなたはどうする、スイスに帰ってくるか帰ってこないか？ 泣くんだったら帰ってこなくてもいい」と言われました。死に立ちあうのですから、これ当然泣くんですよ。

帰るか帰らないか、もう私は凄く悩んで。でも自殺ほう助に立ち会って、どうしても想像できなかったんです。死に立ち会うために帰る、そんなことは精神

的に辛過ぎてやっぱり帰られないんです。で、結局いろいろ悩んだけど帰らないことにしたんです。姉は近くに住んでいたから実際に立ち会ったんですけど。

死ぬのにちょうどいい天気だ

それで私たちは毎日毎日電話でやり取りして、そういう気持ちを話したり、でも結局いつも喧嘩けんかで終わったんです。

もう普通に話して「チケット手に入れたんだから、すぐ使わなくてもいいんじゃないの、もうちよつと待っててもいいんじゃないの」って言ったら、彼女は「車椅子になった私は、生きがいのない人生になる」と言うのです。

彼女（母親）の意見です。私の意見じゃないです。「じゃあ、せめてそうなるまでに待ったらいいんじゃないの」って言ったら、「そうなるまで私が待ちたいと思いますか。そこまで待ちたくないから、今の自分で全て出来る段階で、安楽死を実施したい」と言うのです。

「私はもう生きたくない。私はもういい。七十年生きてきたからそれ以上はいらない。これからは悪くなる一方だから、何のためにその苦勞をしなければなら

ないのか」って彼女（母親）が言っていましたね。

結局は、来週の木曜日の午前十時に実施されるとなつて、カウントダウンみたことになるのです。もうあと一週間と思うと本当に心が暴れてしまいます。もう、怒ったり泣いたり、「やめてよ！」とお願ひしたいっていうかね。

何でまわりの誰かが生きて欲しいよつてこれだけ切に願つているのに、母親が「そんなの関係ない、それが私の人生だから自分で決めるんだ」つて言うのか、何でそんなこと主張できるのかと思います。私も本当に精神的にすごく辛くなつて、でも、もう何を言つても結局止めることのできないことはすごく感じました。

私が日本にいて遠く離れてるから、母親も寂しかったと思うかもしれないですけど、兄とか姉は近くに住んでたんですし、さつき言つてたように綺麗な景色が毎日見えるのに何が死にたいんだつていうかね。周りに大事に思つてくれる方もいた、だから一人で誰もいなくて、どうしても孤独だからもう早く死んだ方が良くとかそういうことじゃなかったんです。

木曜日の当日も電話してました。時差を考えると日本は八時間進んでますから私が午後五時（スイス時間の午前九時）に玄関出るまでしゃべったんです。でも、これで話すの最後つてわかったら、何を、何を伝えるんですか？ 後で言うの忘

れてたと気がついてても手遅れです。そういう後悔をしたくないんです。これが最後とわかって何を伝えるのかというのはすごく辛いですね。

母親は「あ、今ちょうど雪が降ってて死ぬにちょうどいい天気だ」そんなこと言っていました。死ぬにちょうどいい天気だと。

私は、最後まで喧嘩で終わりにたくないから、どう言ったら後悔しなかったか、よく考えて、でも私がそれか思いつく前に母親が「じゃあね」と言っていて、それが最後の言葉でした。

やっぱり心がついていけないんです

私は、その日、ただじつと座って、時計を見て何もしていないというのは耐えられなかったです。時間が過ぎていくのを見るだけではもう辛過ぎて、もう自分も壊れてしまう気持ちだったから、その日はいつも通りに普通の仕事を、いつもの木曜日に行っているのと同じようにリズムを失わないようにやっていきたいなと思います。

で、尺八の稽古に行く電車に乗って、ホームに電車が出る時間が出てくるんです

けど、もうそれを見るとあと十分、あと五分とやっぱり思ってしまったんですね。目的地に到着したら丁度、六時三分、四分になってたから、じゃあもう終わっているのかなと思いました。あのときの景色よく覚えてます。

二時間ほど後に、スイスの姉に電話して「どうだったの」って聞いたたら、「順調に終わりました」って。姉は母によく似ててけっこう冷静な人で、私みたいに感情的になることはなかったんです。

当日は、安楽死の組織から看護師とか来てビデオカメラをセットアップされるんです。そのカメラの前で質問に答えなければならぬんですね。「あなたは死にたいんですか」って聞かれて「はい、私は死にたいです」「ここに入ってる薬は何かわかりますか」「はい、この薬で死にます」って答えます。「どういう薬が入ってるかもわかります」ってことですね。警察呼んで、そのビデオを見せて亡くなるのは本人の意思であつたという証拠を残す感じですよ。

それで姉が、母親が思い出がっぱいあるあのリビングのソファの上で横になって亡くなってる姿の写真を私に送ってくれたんです。だけど本当にあまりにもやっぱり心がついていけないんですよ。

病気で、悩んで亡くなったんだしたら、心がそのプロセスについていけるんで

すけど、一時間前は普通に電話で元気にしゃべったのに、もう今はもうソファの上で横になって、もう二度と目を開くことはないと思うと、本当に未だに、やはりよく理解できてないです。

私、あれからスイスに帰ってないんです。スイスでは母親の葬式もなかったですね。そして、母親が亡くなった後、元気であった父親も倒れて急に亡くなったんです。それは普通の自然死でしたけど。

自然死の難しさ

どうしてね、今のこの社会にこの安楽死が必要になってきたかかっていうと、必要になってきたと思っではないんですけど、どうしてそういうテーマがでてきたのかと思うと、やっぱり一つはその自然死の難しさじゃないかなと思うのです。

医学の進歩により、今は薬があつて治すことはできなくても延命治療で、けっこう維持して長生き出来るようになってきてるよね。

いつもそこで思い出してしまうのはうちの近くにシーズー（犬）を飼ってる家庭がいたんですけど、スイスじゃなくて日本だね。もうそのシーズーは二十歳近

くなってるんです。もう目も見えない、耳も聞こえないし歩けない。でも、ちょっと体調が怪しくなったらすぐ家族が走って動物病院へ連れていくんです。そこで何らかの薬とか点滴とか何かして心臓さえ動けばその命どこまでもこれを無理やり延ばしてやるような感じに見えたんです。

自然死の難しさを感じます。もういまの薬や医学の進歩によつて、本当になかなか死なせてくれない状況になってるんじゃないかなと思いますね。

本当に生きるっていうのは何かと問われてる時代になってるんじゃないかなと思います。

どうして届かないのかな

六月だったかな、Zエヌテレビで「彼女は安楽死を選んだ」って番組をやったんですけど、見られた方いますか。何人かいますね。

簡単に紹介すると、スイスで海外から希望者を受け入れる団体が、一人の日本人女性が安楽死を行ったのです。三年前に体の機能を失われる神経難病と診断され、歩行や会話が困難となり医師からはやがて胃瘻いろうと人工呼吸器が必要となると

宣告されます。そのあと、人生の終わりは意思を伝えられるうちに自らの意思で決めたいとスイスの安楽死団体に登録したのです。

まあ、彼女の場合は神経難病で本当に次々と機能がマヒしていつて、最初は歩けなくなったりして、だんだんとしゃべれなくなったり最後に結局は寝たきりになって呼吸もできなくなる状態にまでなっていくんですね。

彼女がいったことばは「I want to receive 安楽死 while I'm still myself
(私はまだ自分であるうちに安楽死をしたい)」

介護してもらつてること、ありがとうとか、ごめんなさいとか、そういうことも言えなくなる自分の姿が耐えられないんですね。だから自分で意思表示ができるうちに安楽死を実施したいって言っていました。体の機能を失って生きること、尊厳を見いだせないのです。

役に立ちたいとか、役に立たなければもう生きる価値がないという気持ちがあるのもわかりますけど、どうして「生きて欲しい。家族のそばで生きて欲しいかった」という私の母親に対する望みや気持ちは、本人たちに届かないのかなって思うんです。

NHKの番組でも、妹さんは「鎧を脱いで人の助けを得ながら生きて欲しい」と

願ったんですが、安楽死を選んだ本人は人の力を借りないと生きられない自分の存在を想像できなかったんですね。

母親の場合もおそらくそうだったんじゃないかなと思います。自分のプライドですね。

結局迷惑かけながら生きてる

みなさんの中に、安楽死が日本にあればいいのかどうか、日本でも法制化されたらいいんじゃないかなと、ひよつとして思ってる方もいるかもしれないですね。NHKの番組の次の日に喫茶店にいったら、ちょうど隣のテーブルで二人の方が話されていて、それでちよつと聞こえてきました。

「あれいいねえ、あの安楽死。日本にもあつて欲しいねえ」

「そう、自分で良いタイミングで安楽死を決められたら迷惑をかけずにすむね」
お世話になりたくないとか、世話になつたら悪いとか、迷惑かけたくないという本音はすごい自然で当然だと思うんですけど、でも迷惑かけずにいたい私たちは毎日毎日生きてられるんですかね。

毎日毎日家族だけではなく周りの人にも結局迷惑かけながら生きてるんですよ。迷惑っていう単語を使うのが嫌ならば、お世話になりながら互いを支えながら生きてるんじゃないかなと思います。生まれてから赤ちゃんのときからもういっぱいね、自分では何もできなかつたし、いわばお世話になりっぱなしやったんやね。母親にね。

それを覚えていないだけで、どうして年を取って老いていったら自分で自分のことが出来なくなつたら、どうして、そこではそういう姿はあつちやいけないと思ふのか。それでも自分でできなくなつたからちよつと助けてくれる、ちよつと手を貸してもらつて、子供とか周りの人にサポートというかヘルプをもらいながら生きて行けばいいんじゃないかなと思ふんですよ。

私の母親にも結局そういうプライドがあつてそれはできなかつたんでしょね。

お念仏に出遇えて

もう一つ私を感じたのは結局^よ抛り所^{どころ}が無かつたんですよ。人生を生きる中で何か自分の抛り所があるから生きていけるんじゃないかなと思ふんですよ。

私も母親がこの様に亡くなって、初めて自分の人生に抛り所が無いなって実感してきました。それで一番落ち込んで辛いときに浄土真宗と出遇^{であ}えて、浄土真宗を選んだというよりも縁があつて、出遇いがあつて浄土真宗となりました。

本当に一番落ち込んでいるときにお念仏に出遇えて、またそこから自分の中から生きる力を感じるようになって本当に助かった。毎日助けられてるなつて感じています。

まだまだ、私の歩みは、歩み始めたばかりなんですけど本当になんかそういう出遇いがあつてご縁いただいたいてこの道歩めることは凄く感謝しています。

前に、母親が亡くなる前と亡くなった後、つまり、母親が亡くなって得度してから、母親の死に関してあなたの考えは、気持ちが変わりましたかつて聞かれたんです。

私は、多分得度つていうか浄土真宗のお念仏に出遇う前は、その死、死ぬことの方に焦点を当ててたんですね。「どうして亡くなつたんですか、何で引き止められなかったのかな」という辛い気持ちで溢れてたけど、仏道を歩むようになってからは生きることに関心を当てるように変わつたんです。どのように生きたらいいのかなとか、そういう生きる力を自分のなかから本当に感じるようになって

きました。本当に感謝しています。

じゃあ、もう時間がなくなりそうので話はもうここで終わらせていただきます。尺八を一曲だけ演奏させていただきたいと思えます。

ありがとうございます。

合掌

本書は、2019年12月6日に難波別院堺支院（堺南御坊）
で開催された「第21組 推進員報恩講」のジェシーこと法名
積尼萌海しやくにほうかいさんのお話をまとめたものです。

「報恩講」をお勤めするにあたっては、当検討会で推進員と
住職が本音をぶつけ何度も打ち合わせを行いました。

この中で「私の最期を思わずにはいられない」という意見
があり、やがて「安楽死」の実際について興味が湧きました。

そこで、お母さんが「安楽死」されたジェシーさんからお
話を聞くことになったのです。

ジェシーさんのお話は衝撃的でした。流暢な日本語を操り、
元気なお母さんが「安楽死」を選択するという状況が見えて
きます。いえ、そこからは「私の最期」をどう考えるかと言
う問いかけが改めて聞こえてきました。

確かに、世界中で対応が違うように、「安楽死」の問題は一
筋縄ではいきません。しかし、だからこそ「母親を亡くした
一人の体験」を、分かち合いたく冊子として取りまとめました。

最後になりましたが、本書の発行に御快諾いただきました
積尼萌海さんに深甚の謝意を申し上げます。

2020年10月1日

推進員の活動に関する検討会

—いのちはだれのものですか—

2020年10月1日 初版発行
講 述 積尼萌海
発行編集 大阪教区第21組教化委員会
「推進員の活動に関する検討会」
事務局 〒593-8312 堺市西区草部79
真宗大谷派大阪教区第21組以速寺
組版・デザイン Tatsumaro Yamao



ジェシーこと 法名 ^{しやくに ほうかい} 釈尼萌海さん

スイス出身で京都市在住。武道の研究で来日後、お寺で聴いた尺八の音色に魅了され演奏家を目指し、都山流、琴古流尺八師範を授与される。

母の死を縁として、2018年4月、本山で得度式を受け四国教区誓願寺^{せいがんじ}に所属する僧侶となる。

現在大阪真宗学院にて修学中。





眞宗大谷派 大阪教区第 21 組教化委員会
推進員の活動に関する検討会